

大吉財団 2023 年度事業報告書

1. 法人の概況

(1) 設立年月日

2017 年 6 月 13 日

(2) 定款に定める目的

大吉財団は、困難を抱える子どもに対して食や学び、体験活動などの支援を行うとともに、子どもを取り巻く様々な社会的課題を解決するために地域の産官学民が連携する仕組みを作ることで、地域が一丸となって地域の子どもたちを支える社会の実現に寄与することを目的としています。

(3) 定款に定める事業内容

- (1) 食支援事業
- (2) 学習支援事業
- (3) 災害支援事業
- (4) ボランティア活動助成事業
- (5) つながり支援事業
- (6) その他目的を達成するために必要な事業

(4) 会員の状況

- (1) 法人正会員：23 社 (30 口)
- (2) 個人正会員：21 名 (25 口)
- (3) 賛助会員：103 名

(5) 主たる事務所の状況

神戸市中央区小野浜町 1-4 KIITO306

(6) 役員等に関する事項

役職	氏名	常勤・非常勤	現(兼)職
理事長	山本 吉大	非常勤	(株)洸陽ホールディングス 代表取締役
理事	楠 美香	非常勤	KITANO CLUB 代表取締役社長
理事	小泉 康史	非常勤	小泉製麻(株) 代表取締役社長
理事	草刈 健太郎	非常勤	カンサイ建装工業(株) 代表取締役
理事	金海 勇希	非常勤	(株)エイダブリューエンジニアリング 取締役
理事	栗須 哲秀	非常勤	(株)クリス 代表取締役社長
理事	光信 嘉久	非常勤	SMALL EARTH TRADINGS COO
理事	橋本 純一	非常勤	ツムギ住研(株) 代表取締役
評議員	寺本 督	非常勤	(株)淡路屋 代表取締役社長
評議員	忽那 憲治	非常勤	神戸大学大学院 経営学研究科 教授
評議員	山本 悠	非常勤	新神戸法律事務所 弁護士
監事	長沼 隆弘	非常勤	税理士法人長沼税務会計事務所 代表

2. 事業の概況

(1) 食支援事業

兵庫県内において経済的な困窮等により支援を必要としている子育て家庭や、保護者などの経済状況の悪化により十分な仕送りが得られず厳しい生活を強いられている学生を支援するために、市民や企業から食品・飲料・日用品などの生活必需品を寄付により募り、それらの物品を宅配や譲渡会によって無償で提供する。2023年度は神戸エリアで「神戸こども宅食プロジェクト」や「フードドライブ」等の事業を実施。

●神戸こども宅食プロジェクトの事業状況

	1月臨時便	2月便	4月便	8月便	12月便	合計
実施日	1/21	2/25・26	4/15・16	8/19・20	12/16・17	
応募世帯数	1,350世帯	2,488世帯	2,313世帯	2,547世帯	2,542世帯	11,240世帯
配送世帯数	100世帯	250世帯	250世帯	250世帯	250世帯	1100世帯
ボラ参加数	11名	20名	12名	19名	26名	88名



お届けの内容（2月便）



お手紙記入



梱包の様子



政府備蓄米の活用



梱包の様子＜学生チーム＞



割引提供＜ケンミン食品さま＞



食品の寄贈＜泉平さま＞



割引提供＜オリバーソースさま＞



ボランティア参加メンバー

●企業連携フードドライブの実施状況

フードドライブは家庭などで使いきれない常温の未開封食品や日用品を集め、支援を必要としている子育て世帯へ寄付する活動です。昨年に引き続き、楽天ヴィッセル神戸さまと連携し試合会場でフードドライブブースの出展を行いました。また企業連携の新たな取り組みとして、神戸製鋼所さま、住友ゴム工業さま、メットライフ生命さま、KIITOさまと連携し、据置型のフードドライブを実施しました。

フードドライブの実施概要

	ヴィッセル	KIITO	ヴィッセル	メットライフ	住友ゴム	メットライフ
実施月日	2/18	3/5	5/7	7月	7月	8月
集荷重量	9.0kg	2.1kg	0.9kg	22.3 kg	13.5kg	1.7 kg
	メットライフ	ヴィッセル	ヴィッセル	神戸製鋼	メットライフ	住友ゴム
実施月日	9月	9/23	11/25	12月	12月	12月
集荷重量	14.1kg	16.4kg	15.8kg	43.3kg	22.7kg	8.1kg



メットライフ生命さま



楽天ヴィッセル神戸さま



住友ゴム工業さま



神戸製鋼所さま



メットライフ生命さま



楽天ヴィッセル神戸さま

(2) 学習支援事業

兵庫県内で学習支援に取り組む団体・法人を支援することで、家庭の経済的事情等により学習機会を十分に得られていない子どもが無償で学習支援を受けられる場所を増やすとともに、県内の大学生や企業に学習支援事業へ参画してもらうことで、地域全体で子どもを支える機運を醸成していく。2023年度は神戸市の補助事業「学びへつなぐ地域型学習支援事業」を受ける6団体と、神戸市の補助事業を受けずに学習支援事業を運営する1団体を支援した。

また、学習支援団体の量と質の向上を目的として、学習支援団体同士が課題やノウハウを共有する会「神戸学習支援協議会」のサポートも実施している。

●神戸市 学びへつなぐ地域型学習支援事業

「学びへつなぐ地域型学習支援事業」は、①高校受験・進学を目指した学習の場を提供すること、②高校受験・進学の先の目標として、社会人としてのなりたい自分を描けるように、先輩や大人と接する機会を提供すること、③地域全体で子どもを支える気運を醸成することを目的とし、これらの活動が無償で行う民間団体（以下「実施運営団体」という。）に対して補助金の交付及びその他運営にかかる支援を行うものです。大吉財団は神戸市から委託を受けて、研修会の実施や運営マニュアルの作成支援、ボランティアや協力企業のマッチングなどを行い、官民連携で行う学習支援事業をサポートしました。

サポートした学習支援団体（6団体）



NPO法人阪神つばめ学習会

活動日時: 毎週日曜 9:30~12:00

活動場所: 東灘区文化センター



社会福祉法人基督教日本救霊隊神戸実業学院

活動日時: 毎週日曜 14:00-16:30

活動場所: 兵庫区文化センター



社会福祉法人丸

活動日時: 毎週日曜 14:00-16:30

活動場所: 垂水区文化センター



NPO法人場とつながりの研究センター

活動日時: 毎週日曜 13:30-16:00

活動場所: 北神区文化センター



NPO法人福祉ネットワーク西須磨だんらん

活動日時: 毎週土曜 14:00-16:30

活動場所: 須磨区文化センター



公益財団法人神戸YMCA

活動日時: 毎週土曜 13:30-16:00

活動場所: 神戸YMCA高等学院



成果報告会（3月）



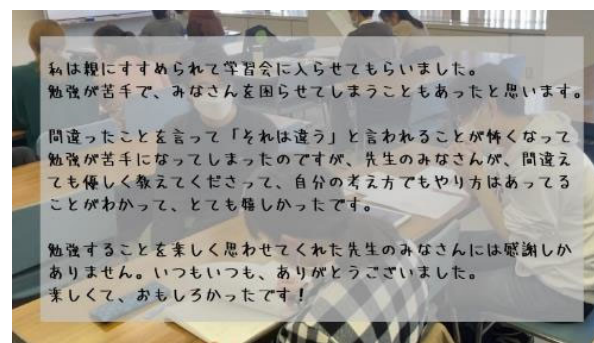
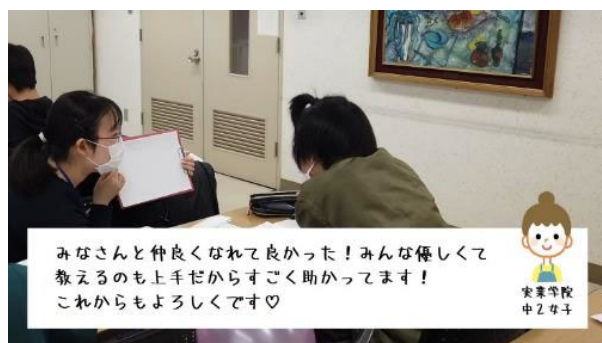
情報交換会（9月）



出前授業（夢ゼミ）（毎月）

実施項目	内容
学習支援団体への研修	学習支援事業の目的と始めるまでの準備について説明
運営マニュアルの整備	学習支援事業に必要な各種様式の作成をサポート
ボランティア募集支援	募集サイトの運営と応募者の取りまとめを実施。186名が参加
ボランティア定着に向けた取組み	指導ノウハウなどを提供するLINEコミュニティを運営
中学生の募集に関わる支援	募集WEBフォームや広報物の作成支援、選考のサポート等を実施。 中学生のべ161名が応募し127名が参加
出前授業（夢ゼミ）の開催支援	企業24社を6団体にマッチングし、全44回の出前授業を開催
学習支援事業のフォローアップ	現地訪問および電話やメール等で伴走支援を実施
情報交換会、成果報告会の実施	6団体が情報交換や成果発表を行う会を企画、運営

受講生の感想（抜粋）



(3) 災害支援事業

兵庫県内で災害が発生した場合、被災した子どもたちは緊急かつ適切な援助が必要となるため、ボランティアを募り、復旧作業や物資の支援を行う。また、兵庫県内の子どもたちに対して災害・防災に関する啓蒙活動を行う

●被災地支援活動

5月5日に震度6強の地震に見舞われた石川県珠洲市を支援するため、災害支援アドバイザーである高橋さん（全国災害ボランティア支援機構 代表理事）と連携して、5月10日に災害支援キャンピングカーで現地へ出発しました。被災地ではボランティアの受け入れを奥能登2市2町（珠洲市・能登町・穴水町・輪島市）の在住者に限定しているため、県外の団体は復旧作業を手伝うことはできませんでした。そのため、2021年の静岡県熱海市の災害支援活動と同様に、支援金と支援物資をお届けしました。

私たちたちがお届けした支援金は、「立ち上げ直後で大変な状況にあるボラセンでは『すぐに』『現場の判断で』『自由に』使えるお金が必要だ」と考えた理事長の山本がフェイスブックで呼びかけ、わずか2日間で集めたものです。最終的に個人66名、法人16社から、合計150万円が寄せられました。



●啓蒙活動

学校等からの依頼を受けて防災や災害支援に関する出前授業を行う他、自治体や市民団体からの依頼で地域のお祭りや自治体の防災訓練、防災イベントに参加して防災や災害支援に関する出展を行い、災害支援や防災の必要性に関する啓蒙活動を行いました。



(4) ボランティア活動助成事業

兵庫県内の子どもを支援するボランティア活動団体の運営相談対応を行う中で、資金が調達できないことで活動の継続や拡大ができない団体に対して、当法人が助成金を交付するものです。2023 年度は前期・後期合わせて 16 団体にのべ 165 万円を助成しました。※2023 年度は一般財団法人だったため大阪エリアの団体も助成対象としています。

●2023 年度前期実績（応募総数 17 件、採択数 9 件）

	団体名	活動地域	助成金額
1	レイラ・ジャパン(小・中学生のための居場所事業)	神戸市	10 万円
2	Salt of the Earth(子ども食堂・学習支援)	神戸市	10 万円
3	特定非営利活動法人全国夜間中学ネット（中学生向け学習支援）	神戸市	15 万円
4	KOBE ジュニアハイスクールクラブ（中学生の学校外クラブ活動支援）	神戸市	15 万円
5	NPO 法人阪神つばめ学習会（中学生向け学習支援）	神戸市	10 万円
6	KADOMA 中学生勉強会（中学生向け学習支援）	門真市	10 万円
7	NPO 法人アンジュ（障害を持つ中高生と親への性教育活動）	豊中市	10 万円
8	特定非営利活動法人神戸ロボットクラブ（プログラミング教室）	神戸市	10 万円
9	ファーストスタート（小学生向け音楽ワークショップ）	神戸市	10 万円
		前期計	100 万円

2023 年度後期実績（応募総数 11 件、採択数 7 件）

	団体名（事業名）	活動地域	助成金額
1	一般社団法人 大阪 I J (小中高生を対象とした救命講習の実施)	大阪市	10 万円
2	ふるさとの和（フードロス食品を使った子ども食堂）	川西市	5 万円
3	一般社団法人チャイルド BASE（子ども体験事業）	三田市	10 万円
4	HMJ_act（わいわいしゅくだいカフェ）	姫路市	10 万円
5	ひめじみらキッズ（ひめじみらキッズイベント）	姫路市	10 万円
6	点訳サークルシックスポイント（一般書児童書点訳・点字啓蒙活動）	神戸市	10 万円
7	Team Santasy（サンタさんが私の街にやってくる）	尼崎市	10 万円
		後期計	65 万円

	合計	165 万円
--	----	--------

助成先団体の活動の様子



レイラジャパン



Salt of the Earth



NPO 法人全国夜間中学ネット



NPO 法人 KOBE ジュニアハイスクールクラブ



KADOMA 中学生勉強会



NPO 法人アンジュ



NPO 法人神戸ロボットクラブ



ファーストスタート



NPO 法人アンジュ



ふるさとの和



HMJ_act



点字サークルシックスポイント

(5) つながり支援事業

子ども食堂や学習支援など個々で活動する団体が増えている一方で、それらの団体が情報交換や連携を行うためのネットワーク（会議体）が求められています。大吉財団は地域の子ども支援ネットワークを作ろうとする団体と連携し、大吉財団と関わりのある団体や企業、大学や行政をネットワークにつなぎ、ネットワークで開催する会議や運営のサポートといった側方支援を行っています。

●BE KOBE ミライセッション 2023

BE KOBE ミライセッション 2023 は、神戸で子ども支援活動に取り組む団体を応援するイベントです。活動内容を発表することで、多くの人たちに子どもを取り巻く問題とその解決方法を広め、神戸を愛する一人ひとりが子ども支援を通して地域の未来をより良くしていくことを目的としています。



BE KOBE ミライセッション 2023 の実施概要

開催日時	2023 年 12 月 2 日（土）13：00～17：00
開催場所	KIITO300（神戸市中央区小野浜町 1-4）＆オンライン（youtubeLive）
参加者	157 名（会場参加：66 名／オンライン参加：91 名）
主催	BE KOBE ミライ PROJECT ・BE KOBE ミライ基金・一般財団法人大吉財団
後援	一般社団法人 神戸経済同友会・一般社団法人 神戸青年会議所
実施スケジュール	【エントリー期間】2023 年 9 月 19 日（火）～2023 年 10 月 30 日（月） 【一次審査】2023 年 11 月 14 日（火） 【最終審査】2023 年 12 月 2 日（土）

審査員	審査委員長：山本 吉大（一般財団法人大吉財団理事長）
	審査委員：岡田 豊基（神戸学院大学法学部教授／前神戸学院大学学長）
	審査委員：木田 聖子（株式会社チャイルドハート代表取締役）
	審査委員：松田 茂樹（一般社団法人神戸経済同友会顧問／株式会社マニックス会長）
	審査委員：山阪 佳彦（株式会社マック／元神戸市クリエイティブ・ディレクター）
	審査委員：中山 さつき（神戸市こども家庭局長）

BE KOBE ミライセッション 2023 の表彰結果

表彰名	団体名	活動内容	副賞 活動応援金
特別感謝賞	NPO 法人全国夜間中学ネット	中学生を対象とした無料学習支援	トロフィ 50 万円
神戸市長賞	コトノハ	地域の資源を生かしたこどもの居場所づくり	20 万円
アサヒ飲料賞	NPO 法人 KOBE ジュニアハイスクールクラブ	中学生部活動の地域移行推進プロジェクト	25 万円
イオングループ賞	神戸新生福祉会グリーンコート新生	中学生を対象とした無料学習支援	25 万円
継続応援賞	一般社団法人イドミィ	多様な子どもたちの「やってみたい！」をかなえる活動	10 万円
	こどもワクワク食堂	こどもワクワク食堂	10 万円
	NPO 法人 放課後学習ボランティア支援の会	小学生を対象とした無料学習支援	10 万円
	NP 法人チャリティーサンタ神戸支部	サンタ活動	10 万円
	NPO 法人そらしど	障害児を持つ家庭の支援	10 万円
感謝賞	NPO 法人神戸ロボットクラブ	小学生や中学生のプログラミング教育の支援	20 万円
	ひょうごスポーツ応援部	「バレーボール交流会」「スポーツ交流会」	20 万円
	子ども演劇祭 in 灘実行委員会	こどもえんげき祭 in なだ 2024 の開催	20 万円



企業賞（22 件）

企業賞名	提供先団体	内容
アサヒ飲料 賞	神戸新生福祉会グリーンコート新生	カルピス 5 ケース
アシックス 賞	ひょうごスポーツ応援部	アシックス製品

企業賞名	提供先団体	内容
アスミビルダーズ 賞	コトノハ	オリジナルグッズ
淡路屋 賞	一般社団法人イドミィ	ひっぱりだこの植木鉢
イズベーカーリー 賞	NPO 法人 KOBE ジュニアハイスクールクラブ	ラスク入りオリジナルトートバッグ
泉平 賞	コトノハ	ブデナー兵庫ゆずゼリー 120 個
N-Theory 賞	神戸新生福祉会グリーンコート新生	図書カード 3 万円分
オリバーソース 賞	コトノハ	とまととんかつソース 12 本(120 本)
	こどもワクワク食堂	
	特定非営利活動法人インクルひろば	
	Salt of the earth	
	ねんりんこども食堂	
	NPO 法人全国夜間中学ネット	
	NPO 法人チャリティーサンタ神戸支部	
	神戸新生福祉会グリーンコート新生	
亀井堂総本店 賞	ひょうごスポーツ応援部	
	一般社団法人イドミィ	かたぬき瓦せんべい 100 袋(200 袋)
	特定非営利活動法人インクルひろば	
ケンミン食品 賞	KOBE マリンカップ	ケンミン焼ビーフン 90 袋
神戸土地建物 賞	NPO 法人神戸ロボットクラブ	図書カード 3 万円分
洗陽ホールディングス賞	NPO 法人そらしど	クオカード 1 万円分(4 万円)
	神戸マイクロキャンバスプロジェクト	
	一般社団法人神戸親子遊び推進協会	
	レイラ・ジャパン	
三宮一貫楼 賞	こどもワクワク食堂	豚まん 50 個
すまうら水産 賞	コトノハ	すま海苔 & 生海苔佃煮 30 セット
創造学園 賞	NPO 法人全国夜間中学ネット	蛍光ペン 50 本、ボールペン 50 本、消しゴム 50 個
ダイドードリンコ 賞	子ども演劇祭 in 灘実行委員会	ミウ レモン&オレンジ 5 ケース
TOA 賞	NPO 法人神戸ロボットクラブ	ロゴ入りボールペン、防災手ぬぐい 10 セット
デジアラホールディングス 賞	NPO 法人放課後学習ボランティア支援の会	図書カード 5 万円分
ノアインドアステージ 賞	コトノハ	テニスボール&ポケットティッシュ 50 セット
浜田工務店 賞	Salt of the earth	まごころ一杯定番おみそ汁 3 ケース
マルヤナギ小倉屋 賞	子ども演劇祭 in 灘実行委員会	蒸しサラダ豆 12 袋入 20 箱(計 240 袋)
	コトノハ	
	一般社団法人イドミィ	
	こどもワクワク食堂	
	特定非営利活動法人インクルひろば	
	Salt of the earth	
	ねんりんこども食堂	
	KOBE マリンカップ	
	一般社団法人神戸親子遊び推進協会	
ロック・フィールド 賞	選考中	おそうざい券 50 枚

●イベント出展（オープン KIITO・ウエシン・みなとまつり・オータムフェス）

KIITO さま主催のオープン KIITO、株式会社ウエシンさま主催のガーデンパーティ、一般社団法人神戸青年会議所さま主催のみなとまつり、オータムフェスティバルに BE KOBE ミライ PROJECT のブースを出展しました。

イベント出展の事業実績

	オープン KIITO	ガーデンパーティ	みなとまつり	オータムフェス	合計
実施日	3/5	4/1・2	7/16・7/17	11/1	
学生参加数	15 名	12 名	17 名	22 名	66 名
寄付金総額	31,851 円	57,800 円	60,720 円	58,800 円	209,171 円



●BEKOBE 大学ゼミ（地産品ゼミ・カメラゼミ）

2023 年後期より BEKOBE 大学の講座として、地産品ゼミ・カメラゼミを開講しました。

各ゼミの講師は企業や専門家の方にご協力いただき、地域貢献や地方活性をテーマに商品開発や活動に取り組み、2024 年 1 月に開催の神戸ルミナリエへ出展しました。



	地産品①	カメラ①	地産品②	カメラ②	地産品③	カメラ③	合計
実施日	11/2	11/6	11/29	12/21	1/9	1/15	
参加数	11 名	7 名	5 名	6 名	10 名	6 名	45 名

ルミナリエ出展実績

開催日程・場所	2024 年 1 月 19 日(金)～28 日(日)・東遊園地
寄付金額	1,054,200 円
来店組数・販売杯数	1517 組・516 杯（コーヒー）・1572 杯（ゆずネード）
ボランティア参加	66 名（神戸女子・神戸学院・近畿・甲南・甲南女子・流通科学）

(6) その他目的を達成するために必要な事業

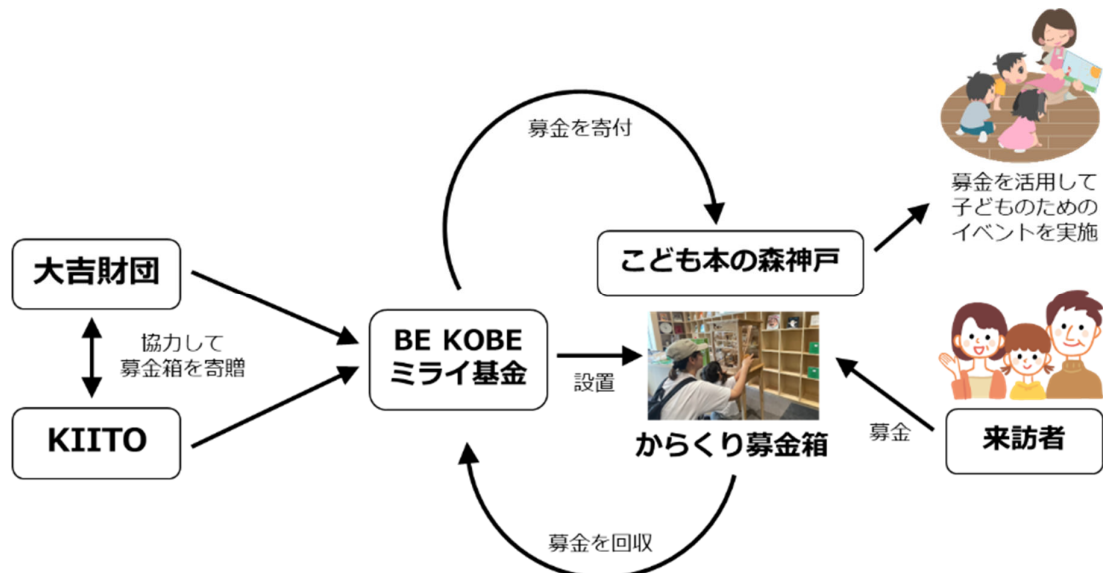
地域が一丸となって地域の子どもたちを支える社会の実現のために、企業、民間団体、自治体、学校などと連携しました。

●BE KOBE こどものからくり募金箱

一般財団法人大吉財団とデザイン・クリエイティブセンター神戸が連携して、こども本の森 神戸に「BE KOBE こどものからくり募金箱」を設置しました。この募金箱は「こども本の森 神戸を訪れる人たちが、楽しみながら、神戸の子どもたちのために募金できるように」というコンセプトで、デザイン・クリエイティブセンター神戸の様々な事業にご協力いただいている家具デザイナーの山極博史さんに製作をご依頼しました。 お金を入れてハンドルを回すと、ビー玉が募金箱の中に設置されたスロープや階段を転がっていくという仕掛けによって、こども本の森 神戸を訪れる方が楽しみながら募金できる仕組みになっています。集まったお金は、神戸の子どもたちと神戸の未来を支えていくための基金である「BE KOBE ミライ基金」からこども本の森 神戸に寄付され、子どもたちの学びを深める様々な取組に活用されます。



【BE KOBE こどものからくり募金箱の流れ】



●企業さま、団体さまとの連携

・P&G さまよりパンパース 278 ケースを寄贈いただき、子ども支援団体に配布しました。



社会福祉法人神戸YMCA福祉会 さま



多文化共生センターひょうご さま



みんなのごはん さま



NPO法人
こども育ちわたし育ちマドリーナさま



児童家庭支援センター
おるおるステーション さま



多胎児子育て支援グループ
マミーベアーズ さま (別紙)



インクルひろば さま



特定非営利活動法人
サポートステーション瀬・つといの家さま



さとのわ さま



●民間団体、学校との連携



西宮 JC 講演 (3/23)



明石振興財団講演 (7/8)



六甲アイランド 高校 出前授業 (7/25)

メディア掲載

2/12 朝日新聞 関西財界セミナー	5/15 兵庫ジャーナル_珠洲市に先遣隊支援金も
2/17 神戸新聞 神戸の大吉財団特別賞	6/19 神戸新聞朝刊_学生と地域連携強化へ
5/10 神戸新聞 石川珠洲の地震被災地へ	6/19 読売新聞 社会とつながり学ぶフォーラム
5/11 朝日新聞 物資詰め込み石川珠洲へ	7/7 サンテレビニュース からくり募金箱
5/11 産経新聞 復興に向け被災者支援	7/8 産経新聞朝刊 親子で募金楽しんで
5/12 サンテレビニュース 珠洲市災害支援	7/10 時事通信 図書館にからくり募金箱

2024/1/25 BS よしもと キクテレミラジ 265 「週刊ローカルニュース」



学生の関心が奇い物事を学ぶ機会を提供しながら、地域とのつながり強化を目指す「BE KOBÉ学生フォーラム」が17日、神戸市中央区小野浜町のデザイン・クリエイティブセンター神戸（KI

ITO)であった。教官の代表者と学生がトークを交わすパネル討論や、コーナーなどをテーマにしたゼミもあり、市庁の学生約70人が学びを深めた。

(勝浦美香)

学生と地域 連携強化へ

「BE KOBЕ大学」9月開講向け

産官代表者とパネル討論



今秋開講する「BE KOBET大学」の
フレイズで、学生たちは種類のコーヒ
ーの飲み比べも体験した「デザイン・
クリエイティブセンター」が、

70人参加 3テーマ事前講座も

地元企業・団体や神戸市、大学などで構成する「BE KOBEMライプロジェクト」の主催。今年9月に開講予定の企画講座「IBR KOBEM大学」のキックオフイベント。

前半では、プロジェクトのチーフはデューサーで大百財団（同市中央区）理事長の山本善太さんが出演。同財団

という。久保田は更に、行政や企業の腐敗が著しく、学生の関心を保持できなくなる場所になった」と批判した。

久米義典が市橋らを交えたパネル討論には平成44年の天下出来事(2)、神戸国際大4年の久保田孝子(22)が登壇。学生らが印象を機に大阪や東京に転出してしまおうとか話に出がり、久保田は「神戸には能力のある企業が少いので、学生は知らない。企業の方からオファーしてほしい」と話していた。

後半には「BE KOBE 大学」の「プレゼミ」として、コーヒー、カメラ、地産品の3テーマに分かれた講席もあった。

J・E・C・Tが主催。神戸市が共催し、市内の大学生や大学院生ら約1000人が集まった。

「ロンドンでの学生生活や社会が求める人材について、団体名答リーターの久元商店市長と大学生らによる討論が行われ、熱心によりをける学生の姿も見られ

た「写真集」。また、コート
ーや地域の特産品を遊した
仕事のあり方についての議
義もあった。

神戸・大学院1年の橋本
悠斗さんの2人は「やりがい
のある仕事を届けられる
よう、自分の興味や関心と
企業の相性」を調べようと
思う」と話していた。

社会とつながり
学ぶフォーラム

中央区

コロナ禍で課外活動ができなくなった学生に、地域社会とのつながりや将来を考える機会を提供するイベント「BEE KOBEBE学生フォーラム」が17日、神戸市中央区で開かれた。

子どもと学生の支援を目的に産官学で作る団体「BEE KOBEBEミライFRO

A black and white photograph showing three individuals standing behind a podium. The person on the left is a man in a dark suit, speaking into a microphone. The person in the center is a woman wearing a dark beret and a light-colored jacket. The person on the right is a woman with long dark hair, wearing a dark jacket. They are all looking towards the camera. In the foreground, the backs of several audience members' heads are visible, indicating they are seated and facing the speakers.

親子で募金 楽しんで



こども本の森 神戸

「からくり募金箱」設置

神戸市は兵庫の区画整理のことと本の森 神戸に
日、本製のかくり募金箱が設置された。お金を入
ると、箱の中を碧玉が転がってさまさまに仕掛け
動き出す仕組みで、訪れた人たちに楽しみながら募
してもらう狙いがある。

[illegible]

楽しく専念できるようにな
なっている。集まったお金
は、子供たちの学びを深
めるためのコンサートや

▶神戸総局
〒650-0015
神戸市中央区多聞通
4-1-5
☎078(851)1771
FAX078(861)3001

廣談のお申し込みは
0120(34)3733
広告のお問い合わせは
078(371)0112

トップ	速報	ライブ	個人	オリジナル	みんなの意見	ランキング	有		
主要	国内	国際	経済	エンタメ	スポーツ	IT	科学	ライフ	地域

図書館にからくり募金箱 神戸市（地域）



「BE KOBÉこどものからくり
募金箱」と募金する親子＝7日午
前、神戸市

世界的建築家の安藤忠雄氏が設計した子どものための図書館「こども本の森 神戸」にオリジナルの募金箱「BE KOBE こどものからくり募金箱」が設置された。寄付金は神戸の子どもたちを支援する「BE KOBEミライ基金」を通して「こども本の森 神戸」に贈られ、本の購入やイベントの運営費用などに充てられる。

「FEB KOBÉ こどものからくり
喜遊館」と喜遊する親子=7日午
前、神戸市

「こども本の森 神戸」の森川美紀子館長が、岩手県に
ある安藤氏設計の図書館などを訪れた際、募金箱を見つ
け、「地域で子どもを育てる文化が根付いている」と感銘
を受けたのがきっかけ。神戸でも設置しようと関係者に提案したという。

募金箱は、お金を入れてハンドルを回すと、箱の中でビー玉が転がる仕組みになっている。地元・六甲山の木材などを使用して募金箱を製作した**家具デザイナー**の山極博史さんは、「楽しんで触れてほしい。たくさん笑顔が生まれたら」と話した。



楽しみながら誰かのために
役に立つということを子どもが学べるということと



さらに子供達の支援に
繋げていきたいと思います

週刊ローカルNEWS